



正月は何もせずにぼーっとしていたら、あっという間に1月も半ばになってしまっていて、寒さにふるえています。たいした仕事もないのだけれども細々としたやるべきことは多々あって、それらに取り組んでいると日が暮れます。ぼーっとしていたら友人からメールで「フィリピンへ仕事で行ってくるが、人間である以上、新年会という物はしななければならない。」困った、困ったという、ちっとも困っていないノームで元気なメールが入ってきた。こっちだって町内の新年会やらなにやらとまあ、その方面はいろいろ忙しいのだ。まあ、寒い中ママチャリで3キロくらいはふるえがおさまらないような中を走っていますが、気を紛らわせるためにラジオを聞きながらのことが多い。それも良いのだけれども言葉が耳に入っていると頭の中がその言葉に占領されて、自分で考える時間を捨てて

しまっているときが多くて、ただ笑いだけのアホなものを聞いていると、あとでむなしい思いをします。

たまにラジオを切って走っているいろいろな音が耳に入ってきます。朝からキーン、キーンと音を響かせているのは、蒲焼き屋の墨を折って火を付ける準備の音だし、からからと気ぜわしいのは下駄をつかかてゴミを捨てて出てきた飲み屋のおばさん。がたがたと木の蓋を開けて水の音をさせているのは豆腐屋の朝の準備、自転車屋からはコンプレッサーの規則的な音が響きだしている。浅草になると、バスから沢山のおじさん達がどやどやと降りてきて、競馬新聞を片手にむっとりした中にも、顔なじみの人同士の短い言葉が行き交う。両国までやってくると、ちょうど9時少し過ぎて、国技館の楼の上からテン、テケケケケ、テン…と甲高い呼び込み太鼓が響き、正面玄関の奥に優勝盃が鈍い金色に輝いている中で、「本日の券を窓口で発売しております…」というアナウンスが流れていて、総武線のガードをくぐると、若い力士が鬘付け油のにおいの中でひそひそ声で話しながらすれ違っていきます。

生活の場は沢山の音の風景にあふれていて、耳を澄ませば広い世界と繋がるのが出来ます。そんな音の世界に浸っていると次々といろいろな考えや幻想や場面が頭の中に展開していきます。心が豊かに幅広くなってゆきます。終始人の言葉に頭を乗っ取られている方はぜひ、心を静かにして、幅広い音をとらえてみてください。なにか違った物が見えてきて、自分でも思っても見なかった展開を始めるかも知れません。音の環境というのも景観設計の物差しとして大切な分野なのだと思えます。

それから、1月のノームは24日から2月2日まで留守にします。東南アジア方面へ出稼ぎですので、事務所にも誰も居なくなります。細々と働いてきます。

現場はどこにあってもそこに立たなければ何も始まりません。どんな小さな景観設計をやるときでも、まず現場に立つことは一番大切なのです。現場に立って人を見て、水の流れや風の動きや生活の流れに包まれて、過去から今、そして未来まで見て、まっとうな考えで判断しないと、きちんとした仕事は出来ないと思っています。ですから現場に立つと緊張します。それまでの私の生き方すべてを物差しにして判断するというのは、こちらが今までの生き方をあからさまに判断されると言うことですし、そこに立たなくても資料を集めれば同じような物は出来るけれども、出来てしまった物は、そう簡単には元に戻すことは出来ないのです。そんな緊張感を持っていつも現場に立っています。そして、そういう技術者がもっと多く育ってほしいと思っています。たぶんこれを見る頃は、南国の乾いた土の上をびりびりした緊張感を持ったまま、「暑いなー。」とつぶやきながら緩慢な動作でノートに何か書きながら立っているんだろうと思います。津波や鉄砲を持った人たちに出会わなければいいなと思っています。

5月のビックサイトの講演は「河川修復緑化を生かす具体的な設計方法」をやれと指定されました。論文集の原稿を現場で書いてこないと間に合わないそうです。暇なのか忙しいのかわけがわからなくなりそうです。

2月の「まなざし」の編集は19日におこないます。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com